

平成 30 年度継続課題に係る中間評価書

研究機関 : パナソニック(株)、日本電信電話(株)、(国研)情報通信研究機構、パナソニックソリューションテクノロジー(株)、(株)KDDI総合研究所、(株)みらい翻訳

研究開発課題 : グローバルコミュニケーション計画の推進 -多言語音声翻訳技術の研究開発及び社会実証- I.多言語音声翻訳技術の研究開発

研究開発期間 : 平成 27 ~ 31 年度

代表研究責任者 : 三村 義祐

■ 総合評価 : 適 (適/条件付き適/不適の3段階評価)

(評価点 20点/ 25点※中)

※ 継続評価の対象となる他の研究開発課題の実施状況との比較が容易に行えるようにするため。①、④、⑤、⑦、⑧の採点結果(点数)の累計点を評価点とする。

(総論)

成果は挙げられているので、実証実験でそれらの成果が統合された形で示されることを望む。その際、何をしようとしたか、何が得られたのか、当初予想と異なった課題の有無、対処策の報告もあとが良い。

今後、社会へ音声翻訳技術を導入する上での留意すべき事項等を整理することを望む。また、ユーザーが一般的に導入する上での本研究開発による取組みがどのように貢献できるのかも考慮した取組みを期待したい。

(コメント)

- プレゼンされた以上の成果が出ているようなのでぜひアピールしてほしい。

- 概ね成果は挙げられているので、実証実験で、それらの成果が統合された形で示されることを望む。
- 当初計画された社会実証実験全体としては、良好に遂行されていることが伺える。
- 今後は本実証実験を通じて、社会へ音声翻訳技術を導入する上で、留意すべきと判明した事項を明示し、導入に関連する外部要素についても整理をし、導入への手助けとなる手引き等を作成し情報を整理することで、新たなユーザーが一般的に導入する場合の課題、対処法を分かりやすく示していけると良い。
- 旅行者目線で全体を通じてチェックされる企画は評価したい。現状で技術的に対処できるもの、できないもの、ユーザーへの指導法など導入に際しての一般化を図る上でどのように貢献できるかを考えた取組みをお願いしたい。
- 単に個別の実証実験報告だけでなく、どの実証実験から何を得ようとしたか、何が得られたのか、当初予想と異なった課題の有無、対処策について俯瞰した報告があると良い。
- 手堅く研究を進められていると思うが、後半では説得力のある評価方法を工夫して欲しい。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

研究成果に加えて実証での知見が多く得られており、論文誌へのアウトプットや特許取得も評価できる。今後は何が課題として残されているかを明確にした取組みを望む。

(コメント)

- 研究成果に加えて実証での知見が多く得られている。
- Association for Computing Machinery (ACM)や IEEE の論文誌へのアウトプットも評価できる。特許も取得している。
- 当該タスクに対するそれぞれの進捗がみられ、一応の取組みがなされている。
- 進捗は概ね順調である。何が課題として残されているかを明確にすると進捗がさらにわかりやすくなる。

(2) 現在設定されている最終目標への到達可能性

(5～1の5段階評価) : 4(評価点)

(総論)

数値目標はすでに多くが達成されてきており、最終目標へもこれまでの実績から達成可能と思われる。

(コメント)

- 数値目標はすでにおおむね達成されている。
- これまでの実績から問題ないかと思う。
- 多くの目標が達成されてきており、達成可能と思われる。
- 場面を限定すれば目標が達成できる可能性は高い。

(3) 現在設定されている最終目標の妥当性

(5～1の5段階評価) : 4(評価点)

(総論)

必ずしも数値目標ではなく実用性の向上を目指していることは評価できるものの、実証実験が個別課題について別々にされている感があり、今後の取組みに期待したい。

(コメント)

- 必ずしも数値目標ではなく実用性の向上を目指していることは評価できる。
- 実証実験が個別課題について別々にされている感がある。
- 全体的な性能確認に向けたユーザーモデル、使用場面の確認は評価できる。
- 「外国人があらゆる場面で言葉の壁を感じることなく…」という表現について、取り組んでいる医療・防災等の想定場面の表現にするとわかりやすい。

(4) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

指摘事項に対し対応しており、計画も取組みも妥当である。今後は、利用者の目的達成度という観点からの客観的な評価を系統的におこなう試みを期待したい。

(コメント)

- 指摘事項に対し対応されている。
- 計画も取組みも妥当と考える。
- 実証に向けた検討対象のシフトから、研究がうまく進展していることがうかがえる。
- 利用者の目的達成度という観点からの客観的な評価を系統的におこなう試みを期待したい。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

当初に比べて、分担者間の連携が進み始めている。今後はそれぞれの研究課題の間関係がわかるような取組みを期待したい。

(コメント)

- 当初ばらばら感のあった分担者間の連携が進み始めている。
- 充分かと思う。
- 各研究開発項目、実証実験に対する分担がなされており、機能すると考えられる。
- それぞれの研究課題の間関係がわかるような取組みを期待したい。

(6) 研究開発の成果展開について

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

コンソーシアム活動等を通じて展開を図っており、商用化を念頭においている。今後は、本実証実験で明らかとなった展開可能性を、技術の一般展開の観点で整理することを期待する。

(コメント)

- コンソーシアム活動等を通じて展開を図っている。商用化をかなりしっかりと念頭においている。
- 今後さらなる検討を期待したい。
- 使用場面に即した導入の工夫、タスクに対するカスタマイズ等、社会実現を目標とした実証実験が進められており、成果展開上必要な事項への配慮がなされている。
- 今後は、本実証実験で明らかとなった展開可能性を技術の一般展開の観点で整理することを期待する。
- 実証実験も半ばなので今後の結果報告を期待したい。

(7) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

適切な使用状況であるのに加え、全体の限られた予算を考えたときに、これら個々の研究開発案件は昨年度までの知見を活かした取り組みがなされている。

(コメント)

- 特に問題ない。
- 妥当と思われる。
- 全体の限られた予算を考えたときに、これら個々の研究開発案件はそれぞれ考えて取り組まれており、使用状況は妥当である。

(8) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

実証実験実施に向けた柔軟な予算使用計画へのシフトは評価できる。技術的検証を意識して、この実証で検証できる事項を確認し、先に続く事項を明らかにするための予算利用の検討を望む。

(コメント)

- 実証実験実施に向けた予算のシフトは、実証に向けた検討がうまく機能していることの証として捉えられ、柔軟な使用計画シフトを評価したい。
- 実証実験の技術課題検証を意識して、この実証で検証できる事項を確認し、先に続く事項を明らかにするための予算利用の検討を望む。